

- 問1 1825年に出された異国船打払令から、1854年の日米和親条約締結に至るまでの期間に、清（中国）で発生した出来事について説明したものと
して正しいものはどれか。（2023年 徳島県公立入試 類似）
1. 清の内部で洪秀全が「太平天国」を建国し、大規模な反乱が起きた。
 2. 朝鮮半島の支配権をめぐって日本と清の間で戦争が起き、日本が勝利した。
 3. 清の排外主義的な団体が北京の公使館を包囲し、連合軍に鎮圧された。
 4. アヘンの密輸問題をめぐってイギリスと清の間で戦争が起き、清が敗れた。
- 問2 1861年から始まったアメリカの南北戦争の最中、ゲティスバーグでの演説において「人民の、人民による、人民のための政治」という言葉を述べ、民主主義の原点を示した大統領は誰ですか。（2018年 茨城県公立入試 類似）
1. ジョージ・ワシントン
 2. トマス・ジェファソン
 3. フランクリン・ルーズベルト
 4. リンカン
- 問3 1825年から1856年までの外交上の出来事をまとめた年表において、1842年に幕府が「薪水給与令」を出して外交方針を和らげた背景として、最も適切な事実はどれですか。（2020年 高知県公立入試 類似）
1. イギリスがアヘン戦争で清を破ったニュースが日本に伝わったこと
 2. アメリカのペリーが浦賀に来航し、開国を強く求めたこと
 3. 生麦事件が発生し、イギリスとの間で軍事的な緊張が高まったこと
 4. 日清戦争で日本が清に勝利し、下関条約が結ばれたこと
- 問4 江戸幕府の第15代将軍である徳川慶喜が「大政奉還」を行った背景や目的の説明として、最も適切なものはどれですか。（2023年 福井県公立入試 類似）
1. 欧米列強との不平等条約を改正するために、幕府の権限をすべて天皇に譲渡して責任を回避しようとした。
 2. 武力による倒幕を目指す勢力の口実をなくし、天皇を中心とした新しい政治体制の中で徳川家が実権を維持しようとした。
 3. 全国の藩主に対して土地と人民を天皇に返還させ、天皇が全国を直接統治する仕組みを整えるために行った。
 4. 関白や摂政といった古い役職を廃止し、総裁・議定・参与の三職を置く新たな政府を樹立することを目的とした。
- 問5 イギリスが清に対してアヘン戦争を仕掛ける背景となった、当時の貿易状況を説明した文として、最も適切なものはどれですか。（2019年 佐賀県公立入試 類似）
1. 清がイギリスから綿織物を大量に輸入したため、貿易赤字に苦しんだイギリスが武力で市場を広げようとした。
 2. イギリスが自国の工業製品を清に売るため、清の特産品であったアヘンの輸入を禁止しようとした。
 3. 清がイギリスとの自由貿易を求めて開国を迫ったのに対し、自国産業を保護したいイギリスが拒否して開戦した。
 4. イギリスが輸入する茶の代金として支払う銀が不足し、その回収のためにアヘンを密輸した。
- 問6 1858年、徳川幕府の老老が天皇の許し（勅許）を得ないままアメリカと結び、横浜を含む5つの港を開くことを決めた条約の名称として正しいものを、次の中から選びなさい。（2017年 茨城県公立入試 類似）
1. 日米修好通商条約
 2. 日米和親条約
 3. 日米安全保障条約
 4. 下関条約
- 問7 19世紀半ば、イギリスが清との貿易における赤字を解消するためにアヘンを密輸し、これを取り締まろうとした清に対してイギリスが軍事攻撃を仕掛けたことで始まった戦争は何か、選びなさい。（2021年 岡山県公立入試 類似）
1. 義和団事件
 2. 太平天国の乱
 3. 辛亥革命
 4. アヘン戦争
- 問8 イギリスとインドの歴史的経緯をまとめた記録において、18世紀から19世紀にかけて、インドからイギリスへ綿織物を輸出する形から、逆にイギリスからインドへ綿製品が大量に流入する形へと貿易構造が変化しました。この変化をもたらした最大の要因として正しい説明を選びなさい。（2023年 三重県公立入試 類似）
1. 東インド会社がインド全域での棉花栽培を中止し、食料増産を優先させたため。
 2. フランスとの植民地抗争に勝利したイギリスが、インドの全港を封鎖したため。
 3. インド大反乱の結果、イギリス政府がインドでの綿織物生産を法律で禁止したため。
 4. イギリスで産業革命が起こり、安価な機械製の綿製品が大量生産されるようになったため。
- 問9 産業革命期に成立した「工場制機械工業」と、それに伴う人口の動きについて正しく述べたものはどれですか。（2019年 長野県公立入試 類似）
1. 機械化により労働力が必要なくなったため、人々は仕事を求めて都市から離れ、全国各地の農村へ分散して定住するようになった。
 2. 蒸気機関などの動力を利用した機械が工場に導入されたことで大量生産が可能になり、多くの労働者が集まった都市へ人口が集中した。
 3. 工場での生産が衰退した代わりに、自宅で製品を加工する家内工業が中心的な産業となり、都市の人口は減少に転じた。
 4. 手作業を中心とする工場に多くの労働者が集まって分業を行う形態が普及し、農村部での人口増加が顕著になった。
- 問10 開国後の貿易において、日本に大量に輸入された安価な工業製品によって、当時の日本の国内産業が大きな打撃を受けた事例として正しいものはどれですか。（2017年 徳島県公立入試 類似）
1. アメリカから安価な麦が輸入され、日本の米作農家が転作を余儀なくされた。
 2. イギリスなどから安価な綿織物が輸入され、日本の伝統的な綿織物業が衰退した。
 3. オランダから安価な鉄砲が輸入され、国内の刀鍛冶が職を失った。
 4. 清（中国）から安価な生糸が輸入され、日本の養蚕業が壊滅的な被害を受けた。
- 問11 幕末の1850年代後半、江戸幕府が欧米諸国と通商条約を結んで開国を進めた際、これに反対する勢力の間で高まった政治思想と、その背景にある当時の社会状況について述べたものとして正しいものはどれですか。（2025年 愛知県公立入試 類似）
1. 公武合体運動：元禄文化の成熟による町人の台頭を背景に、天皇と幕府が協力して欧米諸国との不平等条約を改正しようとした。
 2. 自由民権運動：士族の反乱が終結した後の社会情勢を背景に、藩閥政治を批判し、国民の権利を守るための議会開設を求めた。
 3. 尊王攘夷運動：勅許を得ない条約締結への反発や、開港に伴う物価高騰による社会不安を背景に、天皇を尊び外国勢力を排除しようとした。
 4. 文明開化：産業革命による生産技術の向上を背景に、西洋の進んだ制度や文化を取り入れ、幕府の権威を近代化しようとした。
- 問12 倒幕運動が激化する過程で、それまで対立関係にあった薩摩藩と長州藩が、坂本龍馬らの仲立ちによって結んだ協力関係のことを何と言いますか。（2026年 愛知県公立入試 類似）
1. 薩長同盟
 2. 日米和親条約
 3. 日英同盟
 4. 尊王攘夷運動
- 問13 幕末に「世直し」を求める民衆の動きが活発化した背景として、当時の社会状況を最も適切に説明しているものはどれですか。（2026年 千葉県公立入試 類似）
1. 開国にともなう貿易の開始によって物価が急騰し、人々の生活が困窮して社会への不満が高まったため。
 2. 鎖国が強化されたことで外国製品が手に入らなくなり、国内の産業が衰退して失業者が増えたため。
 3. 明治政府による徴兵令や地租改正に反対し、江戸時代の身分制度を維持しようとする動きが強まったため。
 4. 産業革命が進行した結果、都市部に労働者が集中し、労働環境の改善を求める運動が全国に広がったため。

答え合わせ・解説

問1	答え 4 アヘンの密輸問題をめぐってイギリスと清の間で戦争が起き、清が敗れた。	1840年に始まったアヘン戦争は、江戸幕府が異国船打払令によって外国船を排斥していた時期から、開国へと舵を切るきっかけとなった日米和親条約の間に位置する重要な出来事である。大国である清がイギリスに敗北したという報せは、当時の日本に大きな衝撃を与え、幕府の外交政策に影響を及ぼした。
問2	答え 4 リンカン	19世紀半ばのアメリカ合衆国では、奴隷制の存廃や貿易政策の相違から、北部と南部の対立が激化し、南北戦争が勃発しました。北部を率いたリンカンは、戦争の目的が単なる領土の維持だけでなく、自由と民主主義を守ることにあると演説で強調し、後に「奴隷解放の父」とも称されるようになりました。
問3	答え 1 イギリスがアヘン戦争で清を破ったニュースが日本に伝わったこと	1840年に始まったアヘン戦争で、当時アジアの大国であった清がイギリスに敗北したことは、江戸幕府に大きな衝撃を与えました。このまま異国船打払令による強硬策を続けると、日本もイギリスなどの列強から攻撃を受ける恐れがあると判断した幕府は、方針を転換して薪水給与令を発令しました。
問4	答え 2 武力による倒幕を目指す勢力の口実をなくし、天皇を中心とした新しい政治体制の中で徳川家が実権を維持しようとした。	当時の徳川慶喜は、倒幕派による武力行使を避けるため、形式的に政権を朝廷へ返上しました。その狙いは、天皇のもとに諸藩の代表が集まる議会形式の政治体制を作り、その中で最大の勢力である徳川家が政治の主導権を握り続けることにありました。なお、土地と人民を返上させるのは「版籍奉還」、三職の設置は「王政復古の大号令」に関する記述であり、大政奉還とは時期や内容が異なります。
問5	答え 4 イギリスが輸入する茶の代金として支払う銀が不足し、その回収のためにアヘンを密輸した。	当時のイギリスは清から大量の茶を輸入していましたが、清に売るものがないため大量の銀が清へ流出していました。この貿易赤字を解消するため、イギリスは植民地のインドで生産させたアヘンを清に密輸し、茶の代金として支払った銀を回収する「三角貿易」の仕組みを作りました。清がこのアヘンを厳しく取り締まったことが、アヘン戦争の直接のきっかけとなりました。
問6	答え 1 日米修好通商条約	大老の井伊直弼が朝廷の反対を押し切って調印した条約です。この条約により、それまで開かれていた函館・下田に加え、新たに横浜（神奈川）、長崎、新潟、兵庫の開港が決定しました。領事裁判権を認め、関税自主権がないという不平等な内容を含んでいました。
問7	答え 4 アヘン戦争	イギリスは清から茶を輸入し、銀が大量に流出する貿易赤字に苦しんでいました。これを打開するために植民地のインドから清へアヘンを送り込む「三角貿易」を行いましたが、清がアヘンを没収・廃棄したことで軍事衝突に発展しました。これが東アジアの近代化に大きな影響を与えるきっかけとなりました。
問8	答え 4 イギリスで産業革命が起こり、安価な機械製の綿製品が大量生産されるようになったため。	18世紀後半にイギリスで産業革命が進展すると、工場での機械生産によって安価な綿製品が大量に作られるようになりました。これにより、それまでイギリスが輸入していたインドの伝統的な手織り綿織物は競争力を失い、逆にイギリス製の綿製品がインド市場へ流入することとなりました。この経済的な打撃は、のちのインド大反乱の一因ともなっています。
問9	答え 2 蒸気機関などの動力を利用した機械が工場に導入されたことで大量生産が可能になり、多くの労働者が集まった都市へ人口が集中した。	工場制機械工業は、自然の力（水車など）や人力ではなく、蒸気機関などの強力な動力を活用して機械を動かし、一箇所に集まった労働者が製品を大量に生産する仕組みです。この生産体制の確立は、職を求める人々を都市へ引き寄せ、社会の仕組みを農村中心から都市中心へと大きく変容させました。
問10	答え 2 イギリスなどから安価な綿織物が輸入され、日本の伝統的な綿織物業が衰退した。	幕末の貿易では、日本からは生糸や茶が輸出される一方、イギリスなどの産業革命を経た諸外国からは、機械で生産された安価で高品質な綿織物や綿糸が大量に輸入されました。これにより、日本国内の手工業による綿織物業は価格競争に敗れ、大きな打撃を受けることとなりました。
問11	答え 3 尊王攘夷運動：勅許を得ない条約締結への反発や、開港に伴う物価高騰による社会不安を背景に、天皇を尊び外国勢力を排除しようとした。	1858年に日米修好通商条約が天皇の許可（勅許）を得ないまま結ばれたことや、開国によって国内の物資が不足し物価が急騰したことは、幕府に対する強い不信感を生みました。こうした状況下で、天皇を敬う「尊王」と外国を追い出そうとする「攘夷」が結びつき、幕府を批判する大きな運動へと発展しました。選択肢にある「元禄文化」や「土族の反乱」は時代が異なるため、混同しないよう注意が必要です。
問12	答え 1 薩長同盟	幕府を打倒するために、土佐藩出身の坂本龍馬や中岡慎太郎の仲介により、長州藩の木戸孝允（桂小五郎）と薩摩藩の西郷隆盛らが軍事同盟を結びました。この提携が大きな力となり、後の大政奉還や明治維新の達成へとつながりました。
問13	答え 1 開国にともなう貿易の開始によって物価が急騰し、人々の生活が困窮して社会への不満が高まったため。	幕末の開国後、輸出の急増によって国内の物資が不足し、激しいインフレーション（物価高騰）が起こりました。これに凶作や政治的な混乱が加わり、生活が苦しくなった民衆の間で、現状を打破しようとする「世直し」のエネルギーが蓄積されていきました。これが一揆や「ええじゃないか」といった行動につながりました。